

ぎふ感染症かわら版

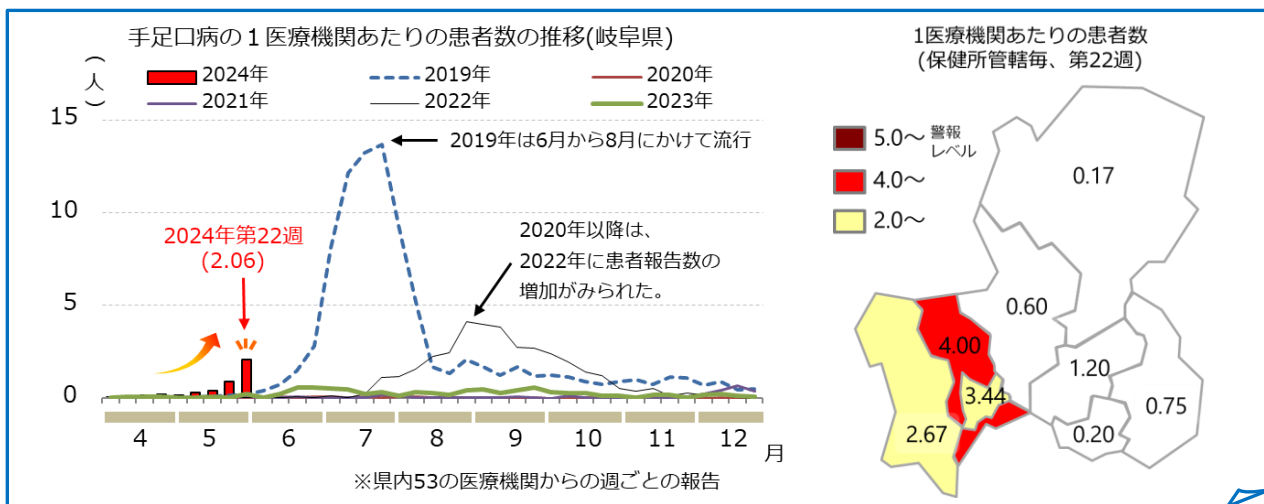


令和6年6月6日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

手足口病に流行の兆候がみられます。

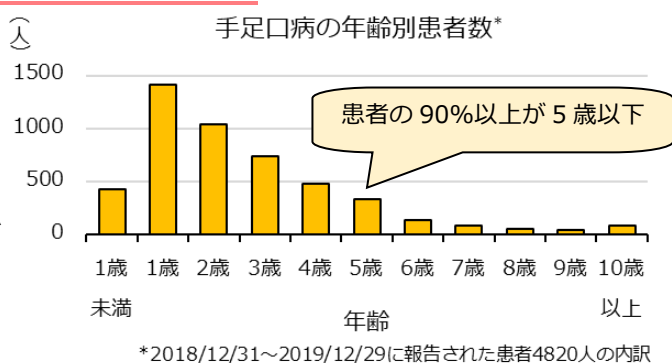
手足口病は、5歳くらいまでの幼児を中心に流行のみられる「夏かぜ」の一種です。昨年夏に流行はみられませんでしたでしたが、今年はずでに九州や四国などで流行しており、県内でも患者が増え始めています。小さなお子様をお持ちのご家庭、保育施設や幼稚園では、感染予防対策をお願いします。

手足口病の主な症状は、感染してから3～5日後に手のひら、足の裏や甲、口の中などに小さな水疱（水ぶくれ）が現れ、また軽い発熱がみられることもあります。



保育施設や幼稚園などでの集団感染にご注意ください。

この感染症にかかりやすい年齢層が集団で生活している施設などでは、感染が拡がりやすく、注意が必要です。特に、2020年以降は大規模な流行がなかったため、乳幼児には感染経験のない者の割合が多く、例年よりも多くの患者が発生する可能性があります。



集団感染を予防するために

- 手洗いは石けんと流水で行い、タオルは共用しない。
- 排泄物を適切に処理する。



特にトイレの後やおむつ交換をした後は、石けんで手を洗いましょう。

唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒をしましょう。

※便へのウイルス排せつは、症状が治まった後も2～4週間続くことがあり、長い間周りの人への感染源となるので注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

